2014年5月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第448号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

1987年創刊、足かけ27年で通算101冊目を発行

釣り専門誌『フライの雑誌』

「商業誌でありながら商業主義を否定するという、矛盾した編集方針を掲げています。」

文・堀内 正徳

『フライの雑誌』第101号記念号（本体1,600円・ISBN 978-4-939003-58-5）と、『バンブーロッド教書［The Cracker Barrel］』（A5判・272頁・本体価格3,619円＋税・ISBN978-4-939003-57-8）など既刊単行本の一部

『フライの雑誌』はフライフィッシングという釣りの専門誌です。通算101冊目の第101号を今年3月に出版しました。1987年の創刊から足かけ27年かかりました。

フライの専門誌、狭い市場規模に3誌も。しかし好きを理由にやり続ける

季刊誌でスタートしましたが、予定日通りに発行された記憶はほぼありません。年に4冊でないのも普通。地方小さんを始め流通関係者さんには頭が上がりません。

読者だったわたしは学生アルバイトで編集部に入り、外部から編集に関わり続けて、創刊発行人が病に伏した2003年の第63号から二代目の編集人を引き継ぎました。編集経験は自主制作のミニコミ誌を数冊作った程度でした。いま思うとおそろしいというか、いまでもおそろしいです。

フライフィッシング（flyfishing）は英国発祥の毛バリ釣りです。映画「リバー・ランズ・スルー・イット」が公開された'90年代初頭にはブームが訪れましたが、基本的にはごくマイナーな釣りです。

日本にはフライの専門誌が、最古参の本誌を含めて3誌あります。市場規模からは多すぎます。多方面であきらかな無理が生じているのを自覚していても、好きを理由にやり続ける。趣味ごとを仕事にすると、労働環境がブラックになる典型例です。

パブリシティ記事は載せない

創刊以来、商業誌でありながら商業主義を否定するという、矛盾した編集方針を掲げています。パブリシティ記事は載せません。新商品紹介も釣り場紹介もありません。釣りと自然の匂いのする読み物と、硬めのジャーナリズムを主体に、時間がたっても古びない誌面づくりを心がけています。

小さな市場でニッチな編集を貫いていることで、結果的に独自の立ち位置を守れていると言えるかもしれません。

雑誌の運営は、書店と釣具店での販売と定期購読の実売が主です。数少ない広告主を、読者も応援してくれています。読者層は30代と40代がメインです。ご自身ではフライをやらない読者もいる様子です。一冊読んで雰囲気を気にいってくれて、バックナンバーを大人買いする方もいらっしゃるのは、ありがたいことです。

原稿の公募や近刊・新刊のPR、タイムリーな情報発信に、自社ウェブサイトとＳＮＳを活用しています。ネットからの発信はこまめな方です。

単行本も２１冊を刊行

フライの雑誌社は『フライの雑誌』の他に、ここまで21冊の単行本を出しています。

島崎憲司郎氏の『水生昆虫アルバム』（1997年初版）は高額本にも関わらず3刷を売り切って新装版が出ています。古典の評価を受けている小社の看板本です。

中村智幸氏『イワナをもっと増やしたい！』、樋口明雄氏『目の前にシカの鼻息』は、雑誌連載をベースに単行本化し、より多くの読者に届けられました。『文豪たちの釣旅』の大岡玲氏は人気連載陣のひとりです。反原発に長年取り組んできた水口憲哉氏が書き下ろした『淡水魚の放射能』は、大きな反響を呼び、各媒体に取材されました。

最新刊は永野竜樹氏訳著の『バンブーロッド教書』。マニアックなテーマで中身はきわめて濃厚です。この先50年は“その筋の人たち”に読み継がれる本になるはずです。

価値観と方向性が合っていれば、読

者は必ず支持してくれます。部数とは関係なく、類書のない本を世に送り出す時のワクワク感は特別です。単行本で小社の存在を知ってくれて、そこから本誌の読者になってくれる方もいます。通常とは逆の回路かもしれません。

原稿のクオリティには気をつかい、原稿料は必ず支払う

『フライの雑誌』は、書き手は読者であり、読者が書き手にもなるノーボーダーが売りです。編集者はみんなの自由な遊び場の、雇われ管理人といえます。誌面での発言や意見に規制はありませんが、原稿のクオリティには気をつかいます。

その意味で原稿料は必ず支払います。わずかでもお金を介在させることで、遊び場の質を維持できます。管理人の大事な仕事です。

社会的な立場をこえて、人間どうしをフラットに結びつけてくれるのが釣りの魅力のひとつです。見知らぬ誰かとも、釣りは百年の友のように結びつけてくれます。

ですから、誌面には常に新鮮な驚きがあります。とくに最近、書き手の横軸と縦軸が勝手に広がりつつあると感じるのは、27年続けたおかげかなと思っています。

趣味で通じている者同士は、互いにある種の共犯感覚で結ばれている

じつは『フライの雑誌』は季刊誌を返上して、以降は不定期刊になる旨を、第100号の誌面で読者に案内しました。この先の生き残りを考えた決断でしたが、今までも不定期刊行だったくせに、何をいまさら、という読者の声が多かったのには、正直ずっこけました。不定期でいいから続けろ、という読者に助けられています。

第101号は編集人になって11年目で、初めて心から、編集作業が楽しいと思えた一冊でした。100号をこえて、不肖の二代目も肩の荷をすこし下ろせた気がします。

趣味で通じている者同士は、互いにある種の共犯感覚で結ばれます。それがマイナーなフライフィッシングなら、秘密結社感さえ漂います。

せち辛くなる一方の世間で、本誌が同じ価値観を共有する人どうしの、こころの出逢い系になれればいい。わたしは人里はなれた秘湯の湯守りです。読者にこき使われてわさわさと手足を動かす〈釜爺〉みたいなものです。

この小文に興味を持ってくださった方は、よかったら拙著『**葛西善蔵と釣りがしたい**』をお手にとってみてください。お金にも名誉にも縁がなさそうなのに、やけに愉しげに日々を過ごしている、めずらしい人々の人間模様を面白がっていただけると思います。

（ほりうちまさのり／フライの雑誌社代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『脈79号　ー特集・吉本隆明と沖縄』●比嘉加津夫編著

本特集は「琉球弧とオホーツク」「歌謡の祖形をめぐって」「吉本隆明と天皇制論」「吉本にとっての沖縄」「南島論という言葉を聞いたころのこと」ほか8篇からなる。

吉本が沖縄（南島）を思考の中心にすえてくるのは、沖縄の日本復帰やベトナム戦争の情況下である。柳田國男の『遠野物語』から「共同幻想論」が、同じく『海上の道』から「南島論」の発想が生まれてくる。この二つの代表作「共同幻想論」と「南島論」は不可分である。南島には、日本国と称される文化（幻想）である天皇制の文化、ではない日本列島の住民の文化（幻想）がある。国家以前の文化を紡ぐ場として「南島」という幻想をいだいたという。

◆1080円・A5判・153頁・**脈発行所**・沖縄・2014/2刊・ISBN978-4-907568-68-9

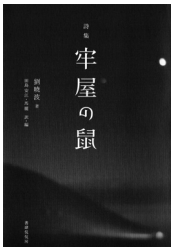
『日中関係の針路とメディアの役割』●新聞通信調査会編

日中関係を危機的な状況に陥らせているのは、政治家は勿論であるがメディアの責任も大きい。こうした問題意識から、ジャーナリスト団体が昨年秋に開催したシンポジウムの記録である。元中国大使と北京大学教授の基調講演、日中新聞記者らによるパネルディスカッション、傍聴記などを収録する。

議論の紛糾を避けるため、あえて南京、尖閣、靖国といった先鋭的な問題を外し、メディアの在り方に絞って討議された。そのため、傍聴者から、今後の展望やメディアの自律性に至る議論にならなかったとの厳しい批判も出された。だが、こうして顔を突き合わせ、地道な議論を積み重ねて問題を共有化していくことが打開の道ではないかと思わされた。

◆1080円・A5判・125頁・**新聞通信調査会**・東京・2014/3刊・ISBN978-4-907087-27-2

『詩集　牢屋の鼠』●劉暁波著／田島安江・馬麗訳編

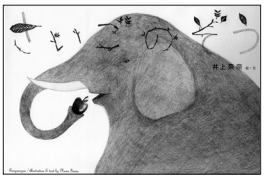


暗喩と悲しみに閉じ込められた詩人。訳者で出版人でもある田島安江は、「劉暁波の詩を通して、世界のかなしみに出会う」と題した後書きで、現代中国の自由詩人劉暁波を冒頭のように評した。民主化運動に関わり、拘束、活動停止を繰り返し、今も獄にある。

10年には本人不在のままノーベル平和賞が贈られた。獄中結婚した妻霞と共篇の『劉暁波劉霞詩選』（2000）から劉暁波の73篇を選び、過去に遡って配列。殆どの作品に「霞へ」とサブタイトルが付く。筆舌に尽くしがたい日々の中で妻に寄せる愛。それは深く思索的でありながら、率直で赤裸々な人間くさい愛である。悲しみと静かな怒りがずしりと胸を突き刺す。

◆2160円・四六判・263頁・**書肆侃侃房**・福岡・2014/2刊・ISBN978-4-86385-139-9

『さいごのぞう』●井上奈奈著



むかし、地球には「ぞう」という動物がいた。友達も家族もなく、大きな体には悲しみばかりが詰まっている。どこからか頭に落ちてきたりんごがぞうを旅に誘い、行き着いた先は海。船に乗ったぞうは美しい虹を見て思い切り涙を流し、やがてりんごに見守られながら眠りに落ちる。本書は地球から「さいごのぞう」が消えてしまった日のお話。現在、象の生息数は象牙目的の密猟により、この半世紀で半減したと言われ、絶滅の危機に瀕している。このお話が現実とならぬよう環境や動物のために何か出来ることがあるのではないか。子どもから大人まで全世代に手に取ってほしい悲しみの中にも優しさが溢れた絵本。

◆1728円・A4変形横型・34頁・**キーステージ21**・東京・2014/1刊・ISBN978-4-904933-02-2

『復刻　桜島噴火記　ー住民ハ理論ニ信頼セズ』●柳川喜郎著

大正三年、桜島が噴火した。いわゆる大正噴火である。34人の死者を出し、鹿児島市内も大混乱に陥った。これは当時の鹿児島測候所長である鹿角義助を中心に大正噴火を追ったドキュメンタリーである。噴火前から桜島には様々な異変が起きていたが、測候所が「噴火の恐れは無い」と発表したため、避難が遅れ犠牲者が出た。

予測を誤った義助と測候所は噴火後非難の的となり、桜島には測候所不信の文言が刻まれた碑さえ建てられた。災害の予測、情報の伝達、災害時の行動のありかたなど本書が問いかける課題は今も変わらない。30年前に出版された本の復刻版であるが、むしろ震災後の今こそ読まれるべきであろう。

◆1944円・四六判・313頁・**南方新社**・鹿児島・2014/1刊・ISBN978-4-86124-289-2

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2014年3月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**faura**　43　大橋　弘一編　A4　80頁　1028円　ナチュラリー　［北海道］　978-4-503-20161-4　14/03

◆**ゆきのまち通信**　151　企画集団ぷりずむ　A5　50頁　514円　企画集団ぷりずむ　［青森］　978-4-503-20154-6　14/03

◆**Radiation Emergency Medicine**　Vol.3　No.1　弘前大学出版会編　A4　65頁　1188円　弘前大学出版会　［青森］　978-4-503-20164-5　14/03

◆**榛名団**　10号　富沢　智編　A5　90頁　618円　榛名まほろば出版　［群馬］　978-4-503-20170-6　14/03

◆**GREEN REPORT**　411　廣瀬　仁編　A4　192頁　2880円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-905457-43-5　14/03

◆**響き合う街で**　No.68　やどかり出版編　B5　64頁　1296円　やどかり出版　［埼玉］　978-4-503-20167-6　14/02

◆**かまくら春秋**　No.526　伊藤　玄二郎編　B6　83頁　298円　かまくら春秋社　［神奈川］　978-4-7740-0619-2　14/02

◆**オルタ**　450　田中　滋編　B5　17頁　324円　アジア太平洋資料センター　［東京］　978-4-503-20158-4　14/03

◆**地方史研究**　第367号　地方史研究

売行良好書

期間：2014年3月16日～4月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『デザインマンホール１００選』1836円・アットワークス　(2)『帰ってきた！おもろい家族本』1296円・九州人　(3)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(4)『阪神国道電車』2808円・トンボ出版　(5)『ダジャ単』864円・エコールセザム　(6)『新装版　お話のリスト』1296円・東京子ども図書館　(7)『なせば成る！　改訂版』864円・山形大学出版会　(8)『パターン認識と機械学習の学習』1080円・暗黒通信団　(9)『石川啄木入門』1296円・桜出版　(10)『北京食堂の夕暮れ』1944円・本の雑誌社　(11)『おかずのタネ』1296円・ベターホーム出版局　(12)『トルストイの涙』2160円・青風舎　(13)『走ることで人生が変わった』1404円・書肆侃侃房　(14)『熊野、魂の系譜』3240円・書肆アルス

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　３２』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　４月号』648円・東京かわら版　(3)『本屋大賞２０１４』６００円・本の雑誌社　(4)『定食と古本ゴールド』1620円・本の雑誌社　(5)『戦国武将と城』8640円・サンライズ出版　(6)『心の流浪　挿絵画家・樺島勝一』2376円・弦書房　(7)『北京食堂の夕暮れ』1944円・本の雑誌社　(8)『信濃真田氏』5184円・岩田書院　(9)『高尾山・景信山・陣馬山　登山詳細図』822円・吉備人出版　(10)『謎の独立国家ソマリランド』2376円・本の雑誌社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『石神秀幸のラーメンマップ東京１』1080円・幹書房　(2)『阪神国道電車』2808円・トンボ出版　(3)『つむじ風、ここにあります』1836円・書肆侃侃房　(4)『北海道いい旅研究室１４　ｂｏｏｋ３』710円・海豹舎　(5)『カバヤ児童文庫の世界』929円・日本文教出版　(6)『デザインマンホール１００選』1836円・アットワークス　(7)『しあわせの１３粒』1080円・オフィスＥＭＵ　(8)『戦国武将と城』8640円・サンライズ出版　(9)『上越夜行』1728円・上毛新聞社　(10)『柳家喜多八膝栗毛』1728円・まむかいブックスギャラリー

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼5月1日（木）～31日（土）まで、**ジュンク堂池袋店7階壁面にて「秋田八幡平展」開催**、とのことです。2014年5月11日（日）～6月10日（火）まで7階カウンター前でブックフェアも予定。協賛…秋田八幡平温泉リゾート協会／八幡平を美しくする会／（一財）自然公園財団八幡平支部　八幡平ビジターセンター秋田県鹿角市山岳会。

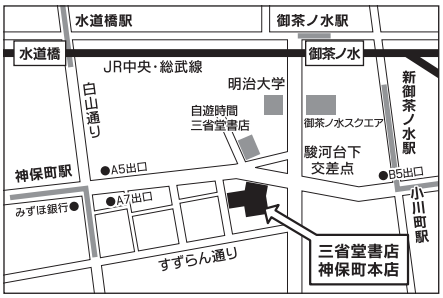
▼**ニコリの数独30周年**を記念して、各地の書店で記念帯つき数独フェア開催予定です。

▼北海道の**海豹舎刊「北海道いい旅研究室」**が本年5月10日をもって創刊15周年を迎えるとのこと。これを記念して、海豹舎が親交のある全国の地方・小出版社10社による一大フェアを開催予定です。紀伊國屋書店札幌本店1Ｆ入口横のフェアスペースにて、6月1日～6月30日までの1か月、題して「あざらし舎と全国のおともだち出版社フェア」。フェア商品を2冊買った人にオリジナルミニ冊子をプレゼントすることや、期間中にインナーガーデンにてトークショー＆サイン会の予定もあるとのこと。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。